



国民の森林・国有林

平成25年 3月10日

(2013年)

No 1694

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市西区京町本丁2-7

IP電話 050-3160-6600(代表)

http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/



九州森林環境シンポジウム

増えすぎたシカによる危機と捕獲・利活用を考える

2月20日熊本市内のフードパル熊本において「九州森林環境シンポジウム」を開きました。

これは近年、九州においてもシカの生息数・生息区域が著しく増加・拡大したことにより、深刻な農林業被害、森林の生物多様性の劣化、植生の消失などに直面しており、増えすぎたシカがもたらす危機的な状況と対応策や、シカの捕獲を促進する上で有効活用をテーマとした当局主催で開いたものです。

今回のシンポジウムの特色としては、シカ肉のジビエ料理

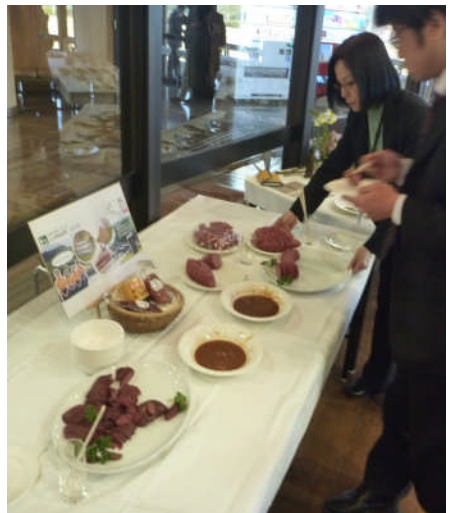
(狩猟で捕獲した野生鳥獣の料理)の試食会を盛り込みました。第一部では、石橋暢生九州森林管理局指導普及課企画官らによる当局におけるシカ対策の取組状況などの報告を行い、続いて3人の専門家①鈴木正嗣岐阜大学教授から「今後の二ホンシカ対策に求められるブレイクスルー」②下牟田盛利えびの市鹿協会会長から「シカの捕獲と有効活用について」③宮本けんしんくまもと誘友大使、リストランテ・ミヤモトオーナーシェフから「ジビエとの共生」についての講演がありました。

第三部のパネルディスカッションでは、コーディネーターに森林総合研究所九州支所長の中村松三氏を迎え、パネリストには第一部で講演を頂いた鈴木正嗣氏、下牟田盛利氏、宮本けんしん氏、濱田秀一郎指導普及課長に、矢部恒昌森林総合研究所九州支所森林動物研究グループ長、勝木真二熊本県環境生活部環境局自然保護課主幹(野生鳥獣班長)を加えた6人が、参加者からの質問に答えるなか、専門的・職能的捕獲技術者やシカ肉の処理技術の向上の必要性などについて熱心な議論が展開されました。

料理・農林業関係者、一般市民や行政関係者など約160人の参加があり、シカ対策に対するシカによる危機と捕獲・利活用について議論する様子

この増えすぎたシカの問題を参加された多くの方々と情報の交換・共有化ができたシンポジウムとなりました。

(担当)指導普及課



ジビエ料理の試食会



長崎森林管理署

厳原森林事務所

首席森林官 松永 雄治

長崎県対馬市の南部に位置する有明山は、対馬の中心地厳原町の西方、有明山（標高五八五㍎）山系の丘陵地帯にあります。有明山を中心に小峰が連なり、山頂を除いて山岳地帯で比較的急峻な地形です。当地は昭和56年にレクリエーションの森「有

# 万葉集に詠まれた名山 対馬の嶺「有明山」

明山風景林」に指定されています。有明山山頂からのすばらしい眺望、その周辺のカシ、シイを主体とした天然広葉樹林の森林美など、四季折々の移りゆく季節の景観を楽しめます。有明山は、万葉集に對馬の峰として詠われた名山で、山頂には草原が広がっており、清水山

には、豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に築いた清水山城の遺構があり、朝鮮出兵により決定的に悪化した日朝関係改善のため奔走した宗家19代・宗義智（そうよしとし）の菩提寺として建立された万松院（ばんしょういん）など、対馬の歴史にふれることができます。数々の名勝地が残っています。

アクセスは、



有明山風景林からの厳原市街地の眺望



有明山山頂から白嶽を望む

対馬空港到着後、厳原行のバスで南へ約20分、厳原町中心部の厳原郵便局前で下車、海路では厳原港到着後、市街地に向けて徒歩約10分で東側から山頂を目指すルート入口へ到着します。本地区は大部分が壹岐対馬国定公園に指定され、有明山山頂から眺望される矢立山（標高六四八㍎）、白岳



万松院（対馬藩主：宗家の菩提寺）



清水山城跡（豊臣秀吉の朝鮮出兵時建築）

（標高五一五㍎）の連山と併せて、浅芽湾の美しい景色を楽しめます。みなさんも是非一度、対馬を訪れずばらしい自然と歴史にふれてみませんか。

# 「準フォレスター」の勉強会

【鹿児島森林管理署】県内の民有林と国有林の「準」フォレスター研修受講者で設立した「鹿児島県準フォレスター等活動推進協議会」では、12月6日、県内の林業関係者ら約60人が参加し「準フォレスター研修報告会及び事例報告会」を開き、今年度の活動や研修概要、国有林における取り組みなどの報告があり現状の情報を共有しました。また、1月22日には、霧島市のみそめ館で「日本型フォレスター活動・育成支援事業実施に伴う専門家による指導研修」を開き、現場で活動を行うために必要な基本的考え方や合意形成などの手法を勉強しました。今後も更に勉強会などの取り組みを進めて行くこととしています。



熱心に聞く参加者＝鹿児島



本立てを作成する児童ら＝西都児湯

## 小学生にふれあい教室

【西都児湯森林管理署】2月

6日、未来を担う大切な子供たちに、木材の軟らかさや温もりを肌で感じてもらい、森林・林業・林産業に興味や関心を持ってもらおうと、西都市みどり推進会議の共催で西都市立茶臼原小学校4・5・6年生31人を対象に「木と子どもふれあい教室」を開催。児童らは、設計図を見ながら当署職員などと一緒

立ってや座椅子を組み立て、出来上がった作品に大変喜んでいました。この体験が子供たちの遊びや暮らしの中で木材に親しむ意識が芽生える「ウッドスタート」となってくれることを願っています。

## この松原でグリーン活動

【大隅森林管理署】2月19日、

鹿児島県大崎町の「この松原」で、国有林クリーン活動を行いました。当日は、あいにくの天気でしたが、役員職員、地元住

民、請負事業体など約60人が参加。これまでの活動で、ゴミの量は減少しているものの、人目に付かないところは依然として不法投棄が絶えず、短時間の清掃活動でしたが軽トラック約5台分のゴミを回収しました。昨年までのゴミ回収量と比べると大幅に減少しており、これまでの成果が上がっていることを参加者全員で痛感し、引き続き不法投棄防止への意識が高まるよう活動を通じ地域住民に訴えていくことを確認しました。



ゴミ拾いをする参加者＝大隅

# 変わりゆく森林

長い間、森林と関わってきた私にとって近年ほど心を痛めたことはない。即ち、森林の環境変化である。森林開発は日本列島改造法案ができて以来、急激な開発活動がおこり何処もこ

のは動物の過保護による生態系の異常変化である。つい最近までシカの雄は狩猟の対象と

ジュソウ、ニリンソウ、バイケイソウなどや刺激臭の強い植物、味の悪い植物以外の植物を食べる。樹木には次世代を生きた

現象は9月まで続くようである。海抜400m付近以下の山にはオオバノイノモトソウ、イワヒメワラビ、ワラビなどのシダ類とナガバヤブマオ、エゴマ、レモンエゴマの群落ができる。海抜500m付近以上の山地にはマンネンソギ、ヒメスギラン、ヒカゲノカズラ、コバノイシカ

瀕している。このような植物の景観は未だ見たことがない。この景観ができたのはシカによるものである。経過を知らない人たちは山の花畑を楽しんでいる方も多いようであるが、今後の山にはヒノキ、スギ林の中にシカの食べないシロタモ（クスノキ科）アオシクユスリハ、シキ

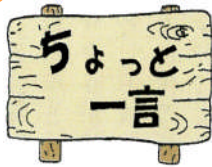
も開発が始まった。のこことによる生物の消滅はひどいもので特に植物は3000種類の絶滅を危ぶまれるようになった。種の

保護法、絶滅危惧種の指定など

乙益 正隆さん  
その幼芽の高さ1・2m以下の植物を全て食い尽くしている。冬になり餌がなくなるとチャノ

グマなどのシダ類と、シモバシラ、ママコナ類バイケイソウの群落、場所によってはフクジュソウの群落、ヤマシャクヤクの

いずれもシカがつくる現象である。ただ、フナ類、カエデ類、シダ類など種子が芽を吹いても食べてしまったためこれらの木の林が見られなくなる時が来るだろうかそんなことを思うこの頃



いろいろな保護施策がなされ現在にいたっている。注目される

ど、行政の机上で考えたことを現場におろした為メスシカが増えて森林には史上稀な変化があらわれた。シカは有毒植物フク



環境省野生動物  
物種保存推進員

その結果、山は裸地になり雨季になると地表の泥を流す。この

キ、ウラジロなど夏季に食べないものまで食べ落葉を食べる。

できた。温帯林にはえるススタケを食べる為ススタケが絶滅に

# 西表島の自然後世に 森林の保護・保全を審議

2月12日に沖縄県石垣市において、第2回西表島森林生態系保護地域保全管理委員会を開きました。

沖縄県竹富町にある西表島は、島の約9割が国有林で、日本最大規模のマングロープ林や原生的な天然林が分布しており、カヌムリワシやイリオモテヤマネコなど数多くの固有種や希少種が生育・生息しています。このすばらしい自然環境を保護し後

世に遺していくため、平成3年に「西表島森林生態系保護地域」を設定し、平成24年に区域を拡大しました。

今回開いた保全管理委員会では、西表島森林生態系保護地域の具体的な管理方法について審議しました。西表島を含む「奄美・琉球」は世界自然遺産の暫

定リストにも掲載され、今後ますます適切な管理が必要となります。原生的な自然環境を保護・保全していくため、今後も審議を重ねて、保全管理のための計画を策定していくこととしています。

(担当：指導普及課)

## 緊急安全ミーティングを開催

【鹿児島森林管理署】1月期に2件連続して請負事業体など

による重大災害が発生したことを受け、全事業の請負事業体などを対象に「緊急安全ミーティング」を当署で行いました。今年度は、請負事業体などの労働災害が多発しており、2件の重大災害は、森林整備事業（活用型）の伐倒に起因する類似災害で、林業事業の安全作業における基本的事項の遵守の徹底が重要であることなどを説明しました。その後、「伐倒の安全作業」のDVDを視聴し、安全意識を高めました。



熱心に説明を聞く参加者＝鹿児島



審議を行う委員の皆さん



阿南 麻衣さん



我が家は築130年の古家です。縁あって、10年ほど前に引越してきました。家全体がかたむいているので、建具は閉まらないからすきま風は入るし、雨もりはするし、縁側で氷はできないしと、こまったことばかりです。でも古い農家だったので、

間取りも広く、夏でもクーラーなしでも平気です。真冬でも軒の具合で、部屋の中まで陽射しが入ってきます。太い鴨居や柱にかこまれているとほっとします。こんなにポロポロなのに、本当に不思議です。

## 木の家のいいところ！

しかしこのままではあまり不便なので、ちょっとずつ手を入れたいです。わたしたちが住む前から何度かリフォームされ、平屋に無理やり2階が造られ、天井や壁は洋風のベニア板が貼られ、現代風にみえますが、それをいねいに剥がしていくと、出てきた出てきた、煤けた真っ黒い柱や梁が！土間の梁にはな

うやって山から切り出したんだらうか？何人ぐらいたの人がかかわったんだらうか？想像をめぐらせるだけで楽しくなります。我が家のまわりにも古い家は何件もありますが、わたしたちが越してきたからの10年の間だけでも、どんどん姿を消してい

きました。重機で壊して、古い部材も瓦もタンブでまとめて運びだし、更地にはあつという間に現代風の家が建っていききました。長い年月をかけて育った樹や、職人の技術や知恵が詰まった家が簡単に壊され、外材や輸入合板でできた職人要らずの家

(熊本県菊陽町在住)

# 親子で楽しく作業 照葉樹林復元ボランティア

2月16日に宮崎県綾町中尾国有林内において、平成24年度第2回照葉樹林復元ボランティア間伐および「もっくん」製作などが、綾の照葉樹林プロジェクト連携会議主催で開かれ、宮崎市内の小学校低学年の親子11組26人および木育サポーターなど6人が参加しました。

朝から快晴となった綾町・川中キャンプ場において、開会式が行われ主催者を代表して津々見正樹宮崎森林管理署長、濱田秀一郎九州森林管理局指導普及



間伐作業を行う児童

「森林での作業の大変さが実感できた。それでも貴重な体験が出来て良かった」

などの声が聴かれました。  
(担当：川口課)

## 伝統の愛林駅伝で力走

【熊本森林管理署】2月18日、熊本県山都町で当署と山都町の主催による「第五八回愛林駅伝」が開かれました。開会式では大会顧問である工藤篤篤署長が「この愛林駅伝は昭和31年に第1回が開かれ、今年で58回を迎えました。この愛林と名のつく駅伝は全国にただ一つと聞いています。皆さんも愛林思想を引き継ぎ

「玄関に入ると木の臭いがするいい庁舎ですね」と好評です。もう一つは、やっと百を切ったことです。クラブを綺麗に磨き上げて仕舞ったまま全く練習せず、2カ月に一度のコンペか



ここ天領日田のおひな様まつりも始まり漸く春めいてきました。昨年の思い出は、何と言っても48年振りの庁舎新築です。地域の風情にあわせた町屋風の落ちついた外観で、腰板と白い壁がマッチングした明るく木のぬくもりを感じさせる落ちついた庁舎が完成し、来客者からも

やっぴい...でました

らコンペの状態で、30年のキャリアが恥ずかしく、これまで百を切ったのは数えるほど、ところが最近が開眼したのか、コンペ前の素振りが功を奏したのか、

りますが、仕事、趣味も含めて何を残すことができるのか、「今年もよかった」と言えるような一年になるようこれから知恵を絞って出してみよう。  
(大分西部森林管理署長 森 勇二)



一斉にスタートする参加チーム＝熊本

ドヒートが繰り広げられました。結果は甲佐中が4連覇を成し遂げ、大いに盛り上がった大会となりました。

## クリーン活動でゴミ最

【北薩森林管理署】2月19日

当署前山国有林内で熊本林業土木協会鹿児島支部による国有林クリーン活動が行われ支部会員・当署職員約50人が参加しました。当日はあいにくの天気の中、県道脇の国有林に散乱していた大型家電、古タイヤ、家庭ゴミなど4トントラック3台分のゴミを悪臭漂う中で泥まみれになり回収しました。心ない人たちが後を絶たないことは残念ですが不法投棄防止への意識が高まることを望みます。



不法投棄のゴミを回収する参加者＝北薩

# シカ被害対策の取組を発表 捕獲技術・効率の向上を目指して

2月7・8日の両日、九州森林管理局大会議室において、林野庁、北海道・関東・近畿中国各局および当局・署の職員など延べ230人が参加し「平成24年度シカ捕獲業務検討会」を開きました。この検討会はシカ被害対策として捕獲技術・捕獲効率の向上を目的に、捕獲業務に

取り組んでいる団体の講演や局・署における取組を発表し、意見交換を行いました。  
はじめに平之山俊作九州森林管理局長より「九州森林管理局



シカ捕獲取組の講演をする森林組合の皆さん

での被害対策については、①相手(シカ)をよく知る②捕獲技術の向上③職員による捕獲業務④民有林との連携による対応、この四つの柱を職員各自が強く認識して挑もう」とあいさつ、高野憲一林野庁経営企画課企画官からのあいさつの後、黒崎敏



暖帯の山地の谷間に生える緑高木で幹は直立します。材質に特に優れた工芸的価値もなく、高価でないことからあまり知られていませんが、里山にあることから、柄木、薪、炭の原木として、時には椎茸の原木としても利用され、燃料革命前は身近な樹木として、日常生活にたくさん使用されました。

垣根に植えると隣にお金を貸す(カシ)ことができるほどお金持ちになると言い伝えがあり、幹がまっすぐに伸びることから、現在でも垣根に好んで植えられています。

「について」と都城森林組合から「都城森林組合におけるシカ捕獲の取組」の講演。当局指導普及課、森林技術センターと北海道局での取組について発表があり1日目を終了。  
2日目は、屋久島署、大分西部署、熊本南部署、鹿児島署か

## 65 ウラジロガシ(ブナ科)

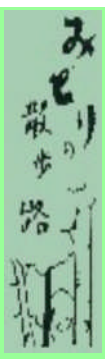
葉を乾かしてお茶にして飲むと胆石や腎臓結石を溶かすという説がありますが真偽のほどは分かりません。民間薬として製品化され、販売されているのは確かです。

名前は葉の裏が粉白色なので「ウラジロ」ガシとなっていますが、図鑑では葉裏の白さについて粉白色、淡緑色、灰白色などの表現を使っています。これは葉裏を観察して自分で覚えることが必要で、文字だけで解釈するには豊富な経験が必要かと思えます。

ウラジロガシの判定は、必ずと言っていいほど根元からぼつ



芽(ひこぼえ)がでてきますので、それを確認することで簡単にできます。



あるテレビ番組に出演している人気弁護士に「最近気になるワードは？」とキャスターが質問しているシーンを目にした。司法試験の難関を突破しただけにその回答は、アカデミックな言葉を選びつつも、そこは人気商売。視聴者の普段の生活に溶け込んでいくワードの中でも、注目度の高い言葉を厳選して誇張しげに解説していた。流石の先生も視聴者の心をしっかりと掴むためにかなりの努力をしているのでは・・・やはり人気商売も楽ではなさそうである▼陽向で本を読んでいるとついウトウトしてしまう季節「春」は、「別れ」と「出会い」の季節でもあります▼今年の春、我々九州森林管理局は、これまでの着慣れた服に「別れ」を告げて、真新しい服を身にまとい、国民の皆様との新しい「出会い」を求めることにしています▼国民の皆様への生の声をお聞きして、しっかりと心をお預けして頂くために総力戦で挑んで参ります▼なにやら、人気弁護士の先生から「森林」というワードを選んでいただくと日がもうそこまで来ている気がしてきました(た)